

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成 31 年 2 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>受付時間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)発 行 日 毎月 1 日
定 価 1 部 150 円 1 カ年 1,600 円(税込・送料込)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

診療情報管理士の役割

佐々木 美幸

箕面市立病院 診療情報管理室長

診療情報管理士が医療機関において果たす役割は何なのでしょう。多くの医療専門職と異なり、治療やケアといった医療行為を行うことはできませんし、直接患者のサポートをする機会も多くはありません。だからといって記録監査や医事請求、データ集約や分析の事務を行う業務かと問われるとそれも少し違う気がします。

診療情報管理士の業務は、今、一言では言い表せないような広がりを持っています。

平成 16 年、私が現職に着任時には入院診療計画やサマリーの督促が主要業務でした。それから 15 年、業務は拡大し、診療情報管理士の病院内での位置づけも少しは知られるようになってきました。DPC の導入で医師、看護師、医事課と調整して流れを作り、DPC 調査データの精度向上に努め、経営分析の一翼を担うようになりました。入院医事室にも診療情報管理士が配属されて医事業務を担当しています。そして、DPC 調査や毎月の保険請求を匿名化したデータや病床機能報告のデータは公開されています。病院で作成したデータが一医療機関の中にとどまらず、日本の医療を分析し将来を考える基礎資料として活用されています。

病院への第三者評価である病院機能評価では 5 年ごとに病院への訪問調査が行われます。病院機能評価では、患者への説明と同意、医療の質向上の取組み、診療録の監査、情報活用など多くの項目で診療情報管理士の役割が問われます。日頃精一杯取り組んでいるつもりでも毎日の業務に追われ、そして目の前の小さな業務の期限や改善に妥協してしまっている日常に、患者の視点に立ってみなさい、それで十分なの？と新たなハードルを示されているような気がします。これこそ、医療に関連する者が忘れてはいけない視点です。

診療情報管理士の役割はどのような業務に携わるにしろ、統計データなど事務的な情報を扱う場合であっても、正確に医療を表しているのかと自らに問いかけ、業務を通じて医療の質を高め患者中心の医療を提供できる環境に貢献することを意識し、よい医療を支える一員となることだと思います。